

のり特定養殖共済の概況(18 年度漁期)

平成18 年度漁期ののり特定養殖共済の支払見込みがまとまりました。

18 年漁期の採苗は比較的順調でしたが、育苗期は水温降下が鈍く、降雨不足による芽イタミや芽の流失に加えて大型低気圧による養殖施設の被害などから、年内生産は全国計で前年比70%と大きく下回りました。年明け後は暖冬傾向で海況も安定し、栄養塩も比較的良好的な水準で推移したことから全体としては順調な生産で推移しましたが、地域ごとには大きな格差が生じました。東日本では育苗期の影響が残り生産数量は減少し、瀬戸内地区では主要県である兵庫県・香川県の生産数量は伸びましたが、その他の地区では芽流れが多く生産数量は減少しました。一方、有明地区では水温が高めで推移し、栄養塩も保たれたことから佐賀県や福岡県の一部では豊作となりましたが、全国的には単価の低迷により漁期を通じた平均単価が最近では最低の8 円代に落ち込み、生産数量は対前年比96%、金額は90%と全般的には厳しい結果で終漁しました。

このため、支払共済金は契約者の負担掛金15 億円に対して23 億円程度、損害率150%と比較的大きな支払になっており、特に、熊本県、愛知県、岡山県、徳島県、神奈川県、広島県、山口県、鹿児島県で多額の共済金支払となっています。

地球温暖化による高水温傾向などの気象・海象の異常、価格競争の激化による単価安、燃油高騰による経費の増加、韓国・中国からの輸入問題など、今漁期においてものり養殖業を取り巻く環境は決して万全とは言えない状況におかれています。

このような厳しい状況の中で自らの経営を守り、安心して漁業経営を継続していただくためには、「ぎよさい」に継続して加入して頂くとともに、契約割合の引上げにより補償力をUP させていくことが重要です。「ぎよさい」が漁業経営のセーフティネットのひとつとして有効に機能していくためにも、皆様の「ぎよさい」に対する一層のご理解・ご協力を心からお願いいたします。

平成18 年度 のり特定養殖共済実績(一部見込みを含む全国計)

共済限度額	共済金額	純掛金	契約者負担掛金	支払共済金
77,103 百万円	56,085 百万円	3,104 百万円	1,533 百万円	2,280 百万円

(平成19 年7月15 日 運動情報版より)